

## 特集

コロナに  
負けな

新型コロナウイルス感染症の影響で、市内小中学校は約3か月間の臨時休業となりました。再開後も、感染症対策をとりながらの学校運営となり、当たり前だった日常に大きな変化が生じています。学校生活の一瞬一瞬は、二度と経験できない大切な時間です。子どもたちのかけがえのない毎日のために何ができるのか。コロナ禍における学校生活について紹介します。

問合先 学校教育課指導担当



# 学校の新しい「日常」



学校では、新型コロナウイルスに関する最新の情報を常に収集しながら、日々の対策を行っています。子どもたち一人ひとりが、「新しい生活様式」を取り入れた学校生活に取り組んでいます。



授業は、原則飛沫拡散防止パネルを設置して行っています。生徒同士で英会話の練習をしたり意見交換を行ったりする際など、授業内容に応じた対応とし、設置しない場合も、マスクの着用は徹底しています。



集会などを行う際も、ソーシャルディスタンスの確保など、対策を徹底しています。行事も可能な限り実施する方向で調整し、体育祭では、種目を検討の上、人数を減らして間隔を保つなどの対策をとりながら実施しました。

給食当番は、フェイスシールドやビニール手袋を着用して配膳を行います。食べるときは、飛沫拡散を防ぐため、全員が同じ方向を向いて食事に集中し、会話はしません。





# 子どもたちのためにできること 〜コロナ禍における学校運営〜

## 学校における感染防止対策

文部科学省が作成した「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」に基づき、対応しています。

### ①児童生徒への指導

学校生活においては、休み時間や登下校中など教職員の目が届かない場面での児童生徒の行動が大きな感染リスクとなります。新型コロナウイルスについて、児童生徒が正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、指導をしています。

### ②感染防止対策の実施

学校内で感染源を絶つためには、外からウイルスを持ち込まないことが重要です。登校時に健康観察票で健康状態を把握しています。毎朝家庭において検温をしていただき、熱がある場合や体調不良を感じた際には、休養するようお願いしています。

学校生活においては、3密にならないよう心がけ、マスク着用の徹底のほか、飛沫拡散防止パネルやフェイスシールドを使用しています。また、多くの児童生徒が触ることとなる共有部分については、放課後に教職員が消毒作業を実施しています。

学校の臨時休業について、保護者や地域の皆さんには、様々な面でご協力いただき、ありがとうございます。

令和2年度は、6月から登校を再開しました。慣れない新型コロナウイルス対策に加え、学校の臨時休業などにより、子どもたちが抱えるストレスは大きなものだったと考えています。

市では、子どもたちが安心して学校生活を送るための感染防止対策を行い、不安な心に寄り添いながら、感染拡大リスクを可能な限り低減できるよう、引き続き支援をしていきます。

## Interview

実際の教育現場の声として、学校生活取材した南小学校および南中学校の校長先生に話を聞きました。

### 家庭・地域・学校 3者の協力で乗り切りたい

コロナ禍の学校運営においては、感染防止対策と教育活動の両立を重要視しています。長い間授業ができなかったため、授業時間の確保や計画の見直し、学校行事の中止や縮小による影響が出ています。個々の行事については、文部科学省のマニュアルや、県および市教育委員会などの通知や指示を精査しながら検討し、判断しています。保護者の皆さんにご理解をお願いしながら、様々な工夫をし、子どもたちのために、可能な限りできる内容・方法で実施したいと考えています。

いつもと違う学校生活で気になるのは、子どもたちの心と体の健康です。日頃から子どもたちの様子や変化をよく観察して把握し、いつでも相談できる体制・関係づくりを心がけています。また、コロナを理由とした差別や偏見、いじめの防止のために、コロナを正しく理解させる指導も重ねています。

収束しないことへの不安が広がること、反対に、慣れによる危機意識の希薄化が今後の課題と考えていますが、緊張感を持ち続け、家庭・地域・学校の3者の協力で乗り切っていきたいと思っています。

子どもたちは、様々な制約や困難の中でも、お友達と一緒に楽しく元気に毎日頑張っています。コロナに負けず、「きらきらと瞳輝く南の子」になってほしいです。

南小学校 校長 伏見 隆一

### 仲間と学ぶ場所 人とのつながりを大切に

長期間の臨時休業による影響は多方面に渡ります。特に、少なくなった授業時数の中で指導すべき内容を履修させることは一番の課題です。1学期は多くの行事が中止となり、また、夏休みが短縮されたことで、かなりの時数が確保でき、年度末にはその学年で学習する内容は修了する予定です。

学校は授業だけでなく、行事など様々な体験的な活動をとおして生徒の成長を図ります。感染症対策を講じた上で、これらすべての教育活動を充実させ、生徒の学びを保障していくことが重要と考えます。

地域の方を招いた体験講座や職場体験などは中止せざるを得ませんでした。3年の総合的な学習の時間では、在日大使館の訪問をZoom会議に変更するなど新たな取組を見出しました。体育祭や合唱コンクールは、規模を縮小しながら、できる限り生徒の活躍の場を担保していきます。制約を嘆くより、その中でできる最善を考えていきたいと思っています。

学校が再開した当初、挨拶の声が小さく、表情なく登校してくる生徒に心配をしました。しかし、仲間と会話を交わし、学び合うことで、日に日に表情が柔らかくなっていきました。学校は仲間と学ぶ場所です。生徒自らが感染症対策を意識し、積極的に人とかかわっていくことを大切に続けてほしいと願っています。

南中学校 校長 真武 公司

新町小学校を取材！

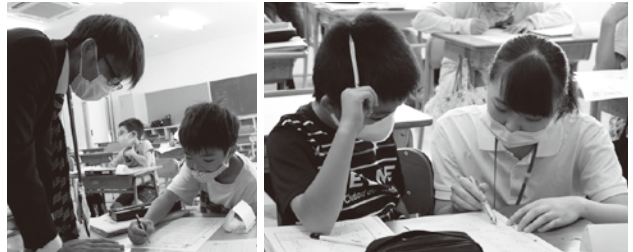
# 鶴っ子土曜塾

鶴っ子土曜塾は、新型コロナウイルス感染症の影響で学校が臨時休業となったことによる、児童生徒の学習に対する不安に寄り添いながら、学習意欲を向上させるとともに、基礎学力を定着させることを目的として開催しています。7月18日から開講し、10月17日から第2期が始まっています。

また、児童生徒に勉強を教える学習支援員として大学生を雇用しており、コロナ禍で大学に通えない、アルバイトができないなどといった大学生の生活と学業継続についても支援しています。



昇降口で「健康観察カード」を預かり、当日朝の体温を確認します。手を洗い、消毒（アレルギー症状などがある場合を除く）してから着席します。



授業は復習プリントを中心に進めます。問題を解き進め、わからないところがあれば、大学生の学習支援員を中心に個別に対応します。児童それぞれの「わからない」に寄り添い、「わかった」を体験させることにより、勉強の楽しさを教えています。

## 学習支援員の声 ～わかってくれる喜び～



日本医療科学大学  
3年生  
うながみ つばさ  
海上 翼さん

—学習支援員に応募した理由は

他では経験できないようなことなので、経験してみたいというのが一番の理由です。

—子どもたちに実際に教えてみた感想は

教えるというのが初めてのことだったので、最初は緊張しました。今は、自分が教えることでわかってくれるということが、とても嬉しいことだと思っています。一方で、子どもたちの性格に合わせて教える難しさも感じています。

—教え子たちへの思いを聞かせてください

本当なら何も気にせず学校で友達と楽しく過ごしてほしいと思っていますが、コロナ禍が続いているので、とにかく感染しないようきちんと対策して過ごしてほしいです。

## 鶴っ子の声 ～参加してよかった！～

—学校の臨時休業で不安に感じたことはありますか

家で勉強するのが難しかったです。いつも遊んでいたお友達とも会えず、おしゃべりもできなかったのも、どうなるのかなと心配でした。

—鶴っ子土曜塾に通おうと決めた理由は

この先勉強がわからなくなるのが嫌だったのと、お母さんにも通った方がいいと言われたので、通うことを決めました。

—通ってみた感想は

わからないことがすぐわかって、大学生の先生たちも上手に教えてくれるので、参加してよかったと思います。第2期も頑張りたいです。

—コロナ禍をこれからどう過ごしますか

マスクの生活は大変だけど、健康な体でいられるよう、毎日手洗いうがいをしっかりします。



新町小学校 6年生  
いいた ゆあ  
飯田 結愛さん